

■生徒の学力の状況
<p>○多くの生徒の学習に取り組む姿勢は向上に向かっている。</p> <p>○低学力の生徒がどの学年にも一定層おり、①文章はもとより文字を書くことを面倒に思う(漢字を避けカナだけで書くなど)、②指導に個別支援を要する、③モチベーションが低い、などの傾向がみられる。</p> <p>○範囲の限られた小テストなどには取り組むが、数ヵ月間に渡る範囲の定期考査になると諦めてしまう、粘り強さの欠如がみられる。</p> <p>○これまで授業に集中できなかった期間があり、その時期の学習事項は欠落している生徒もいる。その生徒も、本校に入学して初めて、集中して授業に取り組んでいる。</p>

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
<p>○放課後なども利用した、基礎・基本の徹底が必要。</p> <p>○生徒は、教師が工夫をした分だけ反応を示すため、主体的に学習に向かうような動機付けや、授業展開が課題。</p> <p>○生徒に発表させ、相互に認め合う機会を増やすことで、自己肯定感を高め、学習へのモチベーションを上げる。</p> <p>○教師が、生徒一人一人の特性や学力を把握した上で対応に当たる必要がある。とくに、個別支援の必要な生徒も増える傾向にあり、よりきめ細かな指導をしていくことも要求される。</p>

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)
<p>①教師の授業力を高める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ICT機器等の思考ツールの活用と、「対話的、主体的で深い学び」の推進を図る。 授業力の向上をテーマとした研究授業形式の校内研修会を実施し、研究協議会を実施する。 教育委員会から委託された「人権尊重教育推進校」の研究を通して、他者理解と主体的に課題に取り組む生徒の育成を図る。 <p>②放課後の「サイレントスタディ」を活用し、家庭学習の充実を図るように課題設定を行う。</p> <p>③家庭学習の習慣を定着させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業内に、家庭学習で取り組むべき課題を組みこむ。 GIGAスクール構想に基づき、タブレットを活用した家庭学習などを積極的に行う。 <p>④小中一貫教育の推進によって、生徒の学びの連続を図る。</p>

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
<p>問題解決型・探究型の授業</p>	<p>協働学習の導入</p>	<p>指導と評価と支援の一体化</p>
<p>○各教科等の授業において、「課題設定→情報収集→分析・考察→課題解決→新たな課題設定」等の学習の流れを定着させる</p> <p>○さらに、発展的・主体的な学習へつながるような発問を用意する。</p>	<p>○学習方法などについて、生徒自身の実践を共有し、また新たな方法を模索するなど、生徒の思考力・表現力を活かし、学習に対する漠然とした不安感を取り除くことで意欲を高め深い学びを実現する。</p>	<p>○授業前に、本時の具体的な目標を提示し授業の最後には目標に対して振り返りを行う時間を毎時間設定する。</p> <p>○とくに「思考・判断・表現」などを評価するポイントを公開し、目指すべき目標を具体化する。</p>

■いたばし学び支援プラン2021の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
<p>○学習の態度目標を全教室に掲示するとともに、授業を受ける姿勢の指導を徹底する。</p> <ol style="list-style-type: none"> チャイム1分前には授業準備を完了し着席すること。 授業前後のあいさつしっかりすること 前を向き、話を目で聞くこと。 私語をしないこと。 ノート・プリントをしっかり書くこと。 自ら発表することを意欲的に行い、他者の発表に対して傾聴すること。 	<p>○放課後にサイレントスタディ(10分)を行い、家庭学習につなげる課題設定をする。また、担任によるチェック、声かけも行う。</p> <p>○ICT機器を効果的に活用することにより、効率的で分かりやすい授業を展開したり、生徒の考えの共有化を図ったりする。</p> <p>○GIGAスクール構想に基づき、どんな環境においても学習の機会を保障できる環境の構築に努める。</p>	<p>○ICT機器や「対話的・主体的で深い学び」に関する理解と、活用・実践能力の向上を図るとともに、リーディングスキルテストの結果を活用した授業改善を図る。</p> <p>○人権尊重教育研究推進校としての取組である教科を超えた3人組の研究チームを活かして、校内の他の教師の授業を参観したりすることで、授業力を高めるとともに、生徒の学習意欲を高めるような授業展開を行う。</p>